（別紙4（2））

事業所名　ハピネス

作成日：平成　23年　2月　2日

2　目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 ・面会や行事の際、直接伺っているものの、長く入居していると職員への遠慮もあり、言葉遣いや身辺衛生面等言いにくいことがあるのではないか。	・意見箱を活用する。	①併設施設玄関に意見箱設置予定している為利用していただく。 ②意見箱設置の照会文をグループホーム玄関に掲示し、利用をPRする。 ③職員間でも意見がある場合は利用する。	3か月
2	2	○事業所と地域との付き合い ・町内のイベントへの参加や外出は出来ているが入居者のレベル低下により、外出が難しくなってきている。家族以外にグループホームへ訪ねてくる方が少なく、他者との交流が乏しくなってきている。	・訪問ボランティアの情報を収集し、声かけ・依頼する。 ・併設デイ利用者との交流を図る。	①職員が知っている情報を基に交渉してみる。 （地元食材を使ったおやつづくりをしている方・ヨガ体操の講師・空き時間を利用したお話ボランティア等） ②併設認知症デイ利用者へ畑作業を依頼したり、お茶会等開催し誘っていく。	6か月
3	3	○運営推進会議を活かした取り組み ・会議形式色が強く、毎回報告の内容でパターン化してきている。	・入居者の活動場面を見てもらう機会を作っていく。	①会議開催場所を会議室からリビングや食堂等変え和やかな雰囲気を作る。 ②イベントに合わせて開催してみる。	12か月
4	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 ・介護度4・5の方が増えてきており、90歳以上の方もおり、入院の頻度も多くなってきている。 ・車椅子利用者が増え、入浴についての支援が難しくなってきている。	・重度化（終末期含む）ケアについて家族と相談する機会を作る。	①家族から現時点での意向を伺い終末期の希望をとる。 ②併設特養への入居申し込みを促す。 ③入浴設備の見直し・設備起案書をあげる。	12か月

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。